



よろこびのうた 樋口了

きらめくいのちの手紙集 うたつづり
話題曲「手紙〜親愛なる子供たちへ〜」を含む全10曲収録



アルバムCD:TECG-30031 定価3,000円(税込)

《収録曲》

How?

みみらく霊歌

手紙〜親愛なる子供たちへ〜

切手のないおくりもの

ほのうた

windy train

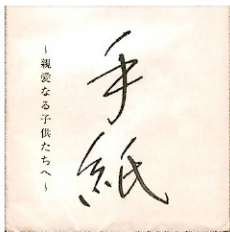
朝花 ニューバージョン

ふたば

風の呼び声

よろこびの歌

好評発売中



手紙〜親愛なる子供たちへ〜
シングルCD:TECG-17 定価1,000円(税込)

よろこびのうた

樋口一



収録曲・セルフライナーノーツ

1. How?

◆現在、イベント、コンサートの1曲目に歌っている曲。自身の子どもとのエピソードから「神様はどこにでもいる」ということを伝えるメッセージソング。

『歌詞の最初の一行が、おもちゃ売り場で子供を叱って泣いた直後の、涙を溜めたままの彼の満面の笑顔を見た時に舞い降りて来ました。その笑顔はそのまま昔の自分の顔でした。むずかしいことでもなんでもない。すべてのものに宿ってくれている「神様」を感じた瞬間でした。その感謝の気持ちを忘れないようにと家に帰って急いで作り上げました。直後に仕事で行ったアイルランドでアレンジのインスピレーションをもらいました。』

2. みみらく霊歌

◆長崎県は五島列島にある福江島に伝わる「みみらく伝説」（みみらくの島に行けば、亡くなった人がしばし海の向こうに現れてくれるといういい伝説）を歌った歌。

『長崎県五島列島福江島。そこに行けば他界した愛する人に逢えるという。別名みみらくの島。万葉の時代から伝わる言い伝えの浜に沈む庄巻の夕日に、呆気にとられながら仕上げた曲です。もう一つはこれも島に千年前から伝わる鎮魂の舞チャンココ。倭の時代の日本を感じてください。「チャンココ知つとるよ。」と教えてくれた、ちーちゃんという小さな女の子の笑顔が忘れられません。この曲を持って会いに行きたいな。大きくなっただろうな。』

3. 手紙 ～親愛なる子供たちへ～

◆2008年10月に発売以来13万枚を超えるヒットを続ける、ロングセラー作品。2009年「有線大賞」優秀賞、「日本レコード大賞」優秀作品賞を受賞。

『この曲を今聴いて浮かぶ言葉は「導き」です。3年前のある日この言葉に出合って、それからここまです振り返ると、しっかりと「道」が見えてきます。歩いているときには無我夢中で気付かなかった道が足元にまで続いているのがはっきりとわかります。初めは僕ひとりだった道を、今はたくさんの方が一緒に歩いています。この道はこの先もずっと続いているんだと思います。誰かにとってこの言葉が消えない命の希望のうたである限り。』

4. 切手のないおくりもの

◆1978年、財津和夫さん作詞・作曲でNHK「みんなのうた」でも放送された曲のカヴァー。

『御存知、財津和夫さんの永遠の名曲です。前曲の「手紙」を

受けて、手紙の郵便配達に携わるポストマンたちにとってこれほどピッタリな曲はありません。アレンジの本田さんと色んなアイデアを出しあっていて、突然「ディキシー!!」というキーワードが降りてきました。』

5. ほのうた

◆2007年2月9日にインディーズより発売されたシングル。

『「ほ」っかいどうに住むDJカラスさんが、自宅で「ほ」と、書いてみたのがそもそもの「ほ」っただでした。その「ほ」を見たみっちゃんがえ「ほ」んを描いて、それを見た僕がこの「ほ」のうたをつくり、曲を聴いた石田卓也さんが「ほ」んわかと心があつたかくなる粘土アニメーションをつくりました。私事ながら、ちっちゃな「っ」の声は、当時1才の長男です。ひとりで平気だと言っていたのに、最後はみんなと一緒になきやつまらないと思わず洩らした「ほ」のモデルは僕自身です。』

6. windy train

◆2007年に廃線となった、宮城県のくりはら田園鉄道のために書き下ろした曲。2006年8月4日にインディーズより発売された「風の呼び声」のカップリング。

『宮城県北部の田園地帯を走るくりはら田園鉄道。廃線になるという話を聞いて、サトケンと始発の石越駅を訪れたのが五年前。昭和の昔のままの駅舎の木のベンチ。ブリキの板の広告。黒電話。昔ながらの硬券。見ているうちにいつしか僕の心は故郷熊本に飛んでいました。年々大きくなる故郷への思いを、柔らかく風を切って走るこの電車に託しました。今はもう廃線になってしまいましたが、線路と車両、駅舎の一部は残されています。』

7. 朝花 ニューバージョン

◆石川さゆりさんに提供し2007年9月10日にリリースされた作品のセルフカヴァーを新録。

『奄美の島唄のなかに「朝花節」という唄があるのを見つけたのが今から七年前の夏。何となく作ってあったメロディーと、この「朝花」という言葉の響きとの出会いはまさしく運命的でした。ラブソングと言えば恋愛の歌、というソングライティング上での束縛から解放された、自分にとって記念碑的な曲です。曲を作っている間、何故か海辺に佇む石川さゆりさんの姿が頭にありました。後にご本人にこの歌が歌われるなんてことは想像の外でした。「人生一瞬だったな。」父のこの言葉が曲を完成させてくれました。』

8. ふたば

◆自身の愛娘のことを歌った曲。

『僕の娘の名前です。部屋で2人で遊んでいて、そのまま出来上がった曲です。なのに何故か転調を繰り返す、アルバムの中でも一番難しい歌になりました。僕の中では自然な展開なんですけど。「かがやきはきみとともにもいい」と娘が歌うとコブシが入ります。気に入ってくれてるみたいでひと安心です。彼女とはどこか他の場所で会ったことがある気がして仕方ありません。子供は親を選んで生まれてくるんだってということを僕は信じます。』

9. 風の呼び声

◆2006年8月4日にインディーズより発売されたシングル。大分「トキハデパート」イメージソング『大分県にあるトキハデパートの70周年記念の歌を作ってほしいと依頼されて作りました。樋口了一の名前は知らなくても、「い〜ま〜きみにもいちど〜」と歌えば、「ああ、あのトキハの」と、わかる程に大分の皆さんに愛される曲になりました。この曲には、忘れられない思い出

があります。その思いを共有している仲間たちの熱意が、「手紙」のリリースに繋がっていきました。故人であるトキハの別宮秀次郎さんの優しい笑顔がいつでも思い浮かびます。』

10. よろこびの歌

◆アルバムタイトルにもなった今作を象徴する作品。繋がっていく命の喜びを壮大なアレンジで歌い上げる。

『アルバムのタイトルチューンです。夜ジョギングをしていて、膝が痛くなり、仕方なく歩いていた時に、歌いだしの歌詞が舞い降りました。でもあまりうまくいかず、しばらくそのままにいました。このアルバムを貫くテーマである「死を越えてゆるぎなく続いてゆく命」。僕がこの考えを受け入れた時、それを待っていたかのように、しばらくして曲が完成しました。いつか、この曲のようにすべてのことによろこべる時が来ることを信じて、憧れを込めて、愛を込めて、未来の自分に、家族に、皆さんに向けて贈ります。』

(全10曲)

よろこびの歌

作詞・作曲：樋口了一／編曲：本田優一郎

もしも 走れないのならば 歩けるよろこび歌おう
もしも 歩けないのならば 立ち上がるよろこび歌おう

もしも 立ち上がれないなら 起き上がるよろこび歌おう
もしも 起き上がれないなら 目覚めるよろこび歌おう

それは君には 今は悲しい歌かもしれない
けれど本当は いつも変わらないよろこびの歌だよ

ラララー よろこびのうたを歌おう
涙で空がにじんだら あたたかく流れる君の
命のよろこび歌おう

もしも なくしてしまったら 与えるよろこび歌おう
もしも 背を向けられたなら 伝えるよろこび歌おう

もしも 一人ぼっちならば 星に抱かれて歌おう
もしも 去り行くときならば 生まれる明日を歌おう

それは一度は 忘れられてしまうかもしれない
けれど誰かが 誰かのためにまた歌い始める

ラララー よろこびのうたを歌おう
どんなに心閉ざしても 降りそそぐ光のような
愛するよろこび歌おう

ラララー よろこびのうたを歌おう
涙で空がにじんだら あたたかく流れる君の
いつか帰って行く君の
命のよろこび歌おう



樋口了一 ひぐちりょういち 《プロフィール》 ■1964年2月2日生まれ、熊本県生のみずがめ座、A型

- 1970年 隣に住んでいた中学生に、ビートルズ・シカゴ・レッドツェッペリンetc.を教え込まれる。
- 1979年 景品でもらったギターでバンドを組み、ボーカルを担当。初めて人前で歌う。
- 1983年 立教大学経済学部に入學。当時、オーディションでメンバーを集めていたバンド「ロイヤルアイランダーズ」に加入。この頃からスティービー・ワンダーをきっかけにブラックミュージックに傾倒。
- 1986年 大学を中退後、ブラックバンド「モジョ」に加入。都内のライブハウスでライブ活動を始める。
- 1989年 新しいバンド「BUDS」を結成、渡米。ロスアンゼルス、ボストン、ニューヨークと渡り歩き、最後にニューヨークでライブステージを体験。帰国後、バンド活動を停止。
- 1993年 7月28日、東芝EMIよりシングル「いまでも」でデビューする。その後、シングル 6枚、アルバム 3枚をリリース。
- 1996年 (株)ロックオンカンパニーに所属。主に作家として他のアーティストに楽曲を提供する。
- 2002年 6月から渋谷 7th FLOOR にて Bimonthly Live をスタートする。
- 2003～ 6年ぶりにニューシングル「1/6の夢旅人2002」をリリース、アーティスト活動再開。'04、ミニアルバム「lives」、
- 2007年 '05、シングル「1/6の夢旅人 / 二度目のありがとう」、'06、シングル「風の呼び声 / windy train」、東芝EMI、Verginレーベルよりベストアルバム「ベストコレクション」、'07、シングル+DVD「ほのうた」リリース。
- 2008年 10月22日、テイチクエンタテインメント/タクミノートよりシングル「手紙～親愛なる子供たちへ～」リリース。
- 2009年 ライブアルバム+DVD「樋口了一 時計台アコースティックライブ」リリース。
「第42回 日本有線大賞」有線音楽優秀賞、「第51回輝く!日本レコード大賞」優秀作品賞受賞。

いつかの自分に届いた手紙 ————— 2年ほど前のある日。

外国語で書かれた一通のチェーンメールが、樋口了一の友人である角 智織氏の元に届いた。

それは、ポルトガル語で書かれた散文のような詩であった。

角氏はその詠み人知らずの詩に感銘を受け、それを訳し、スライドショーという形にして樋口に見せた。

樋口はそれを見て、その詩を読み故郷の両親の当時の状況、そして子を持つ父親として、なんとも言えぬリアリティを感じた。

それから数日後、角氏のもとを再び訪れた樋口は「あの時の詩にメロディをつけて歌にしたい」と話した。

角氏も、音楽活動をしている樋口に、歌にして欲しいと言うつもりだった。

樋口はこの詩に向き合い、その言葉に導かれるままに曲をつけ歌にした。

そして、今年初めから自分のライブで歌い始める。この曲は聞く人の心に響き、届き、感動の涙を誘っている。

「この歌は、この言葉を必要としている人に、自ら歩いていくような曲」と樋口は語っている。

世界中の全ての人が、子供じゃなかった人はいない。

この詩の作者が誰であろうとこの手紙と出会った一音楽家の使命として、この歌を後世に受け継ぐ喜びを樋口は感じている。

こころのポストに届く手紙(うた)と信じて。

角 智織 (スミトモオ) ・1986年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。日本におけるスピリティズムの教義の紹介・普及のため、関係文献の翻訳を行うほか勉強会を主催

樋口了一 ラジオレギュラー番組「帰ってきた夢旅人」好評放送中

- AIR-G (FM北海道) ・毎週日曜日 25:30～
- IBC (岩手放送) ・毎週日曜日 22:30～
- Date fm (宮城) ・毎週金曜日 25:30～
- レディオベリー (FM栃木) ・毎週日曜日 25:00～
- 岐阜放送 ・毎週日曜日 22:00～
- 中部日本放送 ・毎週日曜日 8:05～
- 山陽放送 ・毎週土曜日 22:00～
- FM熊本 ・毎週日曜日 7:30～
- 大分放送 ・毎週日曜日 22:00～

CD好評発売中



手紙
～親愛なる子供たちへ～
原作詞:不詳
日本語訳詞:角 智織
日本語補足詞:樋口了一
作曲:樋口了一
ストリングス・アレンジ:本田優一郎
シングルCD:
TECG-17
定価 1,000円 (税込)



樋口了一
時計台
アコースティックライブ
アルバムCD+DVD:
TECG-30023
定価 3,000円 (税込)



よろこびのうた
アルバムCD:
TECG-30031
定価 3,000円 (税込)

関連書籍好評発売中



ビジュアルブック
角川書店
判型四六判変型 上製
64ページ
定価 1,050円 (税込)



絵本
手紙
～親愛なる子供たちへ～
青志社
著:樋口了一
絵:小林賢子
A5上製美装
40ページ
定価 1,050円 (税込)



悲しいことではないんだ
サンマーク出版
著:樋口了一
四六判並製
141ページ
定価 1,260円 (税込)